

苫小牧港港湾計画改訂(案) 説明書



平成 19 年 9 月 27 日

苫小牧港港湾管理者
苫小牧港管理組合

目 次

1 苫小牧港の課題と対応

- (1) 港の概要及び沿革 1
- (2) 今回計画の方針 2
- (3) 港湾の能力及び貨物量 3
- (4) 港の抱える課題と今回計画での対応

【物流】国際・国内輸送の拠点となるネットワークの機能強化

- 1) 外資コンテナ貨物 4
- 2) 内貿ユニットロード貨物 5
- 3) 一般貨物 7
- 4) 臨港交通施設 9

【環境】快適性、安全性の高い港湾空間の形成

- 1) 緑地の配置 11

【安全】安全・安心で信頼性の高い港湾空間の形成

- 1) 小型船だまり施設計画 13
- 2) 大規模地震対策 14

2 苫小牧港の利用、保全の考え方

(1) 安全・安心に対応した対策の考え方

- 1) 自然災害への取り組み 16
- 2) 港湾保安対策への取り組み 17
- 3) 静穏度対策への取り組み 17

(2) 交流及び景観・環境への考え方

- 1) 交流：市民が集い、観光客でにぎわう拠点の形成 18
- 2) 景観：自然との調和 18

1 苫小牧港の課題と対応

(1) 港の概要及び沿革

1) 苫小牧港の概要

- 苫小牧港は、北海道の海上輸送貨物の約5割を取扱い、取扱貨物量全国4位の「中核国際港湾」であるとともに、内貿取扱貨物全国1位の港湾であり、560万道民の暮らしを支えている。
- 西港区臨海部は北海道随一の工業地帯であり、多種多様な企業が立地し、背後産業を支えているとともに、食料物流基地として農業王国北海道を支えている。
- 東港区は、エネルギー関連企業及び自動車工業の立地操業に対応すると共に、西港区と一体となった広域的な流通港湾としての機能の拡充・強化が進められている。
- 東港区は、苫小牧東部大規模工業開発基本計画に基づいて昭和51年に着工、その後平成7年の苫小牧東部開発新計画により、多様な機能が集積された総合的な港湾空間へと見直しが図られ、これまでの工業専用港から、西港区と一体となった広域的な流通港湾として位置付けられ、新たな展開が始まっている。

2) 沿革

主な経緯

昭和 38 年 4 月	重要港湾の指定（西港区第1船入港）
昭和 39 年 8 月	港湾計画新規策定
昭和 46 年 8 月	苫小牧東部大規模工業基地開発基本計画
昭和 48 年 6 月	港湾計画改訂
昭和 49 年 1 月	港湾計画（新規）策定（東港区）
昭和 54 年 11 月	港湾計画改訂
昭和 56 年 5 月	特定重要港湾の指定
昭和 61 年 8 月	港湾計画改訂
平成 7 年 8 月	苫小牧東部開発新計画
平成 9 年 3 月	港湾計画改訂
平成 19 年 3 月	港湾計画一部変更



（２）今回計画の方針

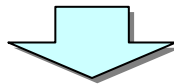
１）目標年次

苫小牧港への要請に対する対応や、関連する計画との整合を勘案し、計画目標年次を『平成30年代前半』とする。

２）港湾計画の方針

背景・要請

- ①アジア・日本を支え貢献する物流拠点の形成
 - ・外貿コンテナの増加による背後ヤードの不足、滞船の増加への対応
 - ・内貿ユニットロード機能の効率化、利便性向上による、より早く・安く・確実な国内物流の実現
 - ・循環型社会に貢献するリサイクルポート機能の強化
 - ・北海道の産業競争力を支えるため、バルク船の大型化対応による輸送コストの低減
- ②大規模地震発生時における緊急物資輸送機能、国際コンテナ輸送機能の確保
- ③ゆとりと潤いのある交流の場としての港湾空間の提供



今回の改訂のポイント

【物流】国際・国内輸送ネットワーク拠点としての機能強化

- ・東港区弁天地区において、国際コンテナターミナル機能の強化を図る。
- ・西港区本港地区及び東港区浜厚真地区へ内貿ユニットロード機能を配置することにより、内貿ユニットロード貨物の効率的な取扱い及び利便性の向上を図る。
- ・東港区弁天地区等へ苫東地区で取扱うリサイクル産業関連貨物を配置することにより、循環型社会の形成に資する。
- ・東港区弁天地区へバルクバースを配置することにより、荷役の効率化を図る。

【安全】安全・安心で信頼性の高い港湾空間の形成

- ・西港区西ふ頭及び東港区中央ふ頭に耐震強化岸壁を配置することにより、大規模地震発生時における市民の安全安心と物流機能の確保を図る。
- ・西港区汐見地区において、曳船の大型化への対応を図る。
- ・西港区汐見地区において、多層係留、荷捌用地不足の解消を図り、小型船の安全性を確保する。
- ・安心して停泊・係留できる環境を確保するため、国際的に信頼される港湾保安対策の構築や港内静穏度の確保を図る。

【交流・環境】交流・観光の拠点づくりと住民参加による快適な「みなとまちづくり」

- ・市民等に開放された安全で快適な港湾空間の形成を図る。
- ・市民・道民の港に対する理解を高め、市民活動の支援を図る。

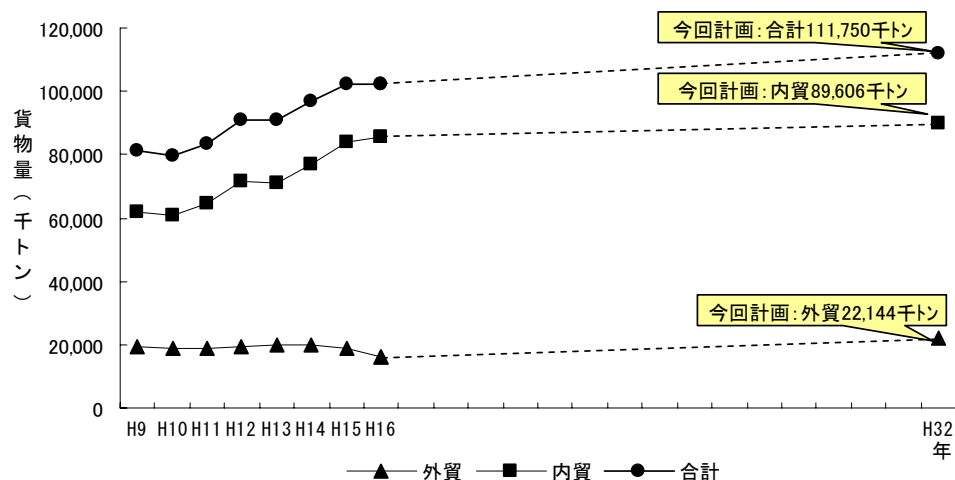
(3) 港湾の能力及び貨物量

外内貿別・公専別取扱貨物量の推移

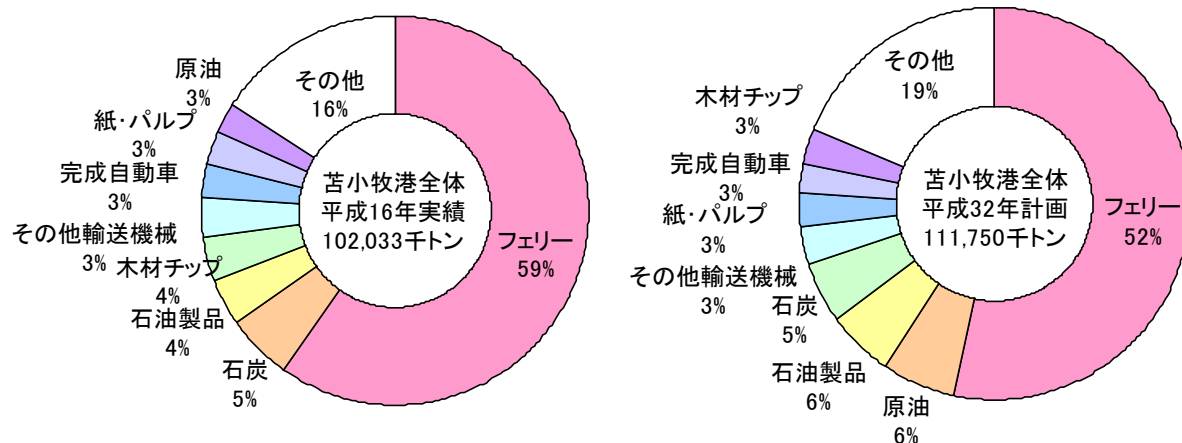
(単位:千トン)

外内別	公専別	実績値										将来値
		平成9	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16	平成17	平成32	
外 貿	公 共	8,320	7,881	7,218	8,153	8,981	8,411	8,216	7,995	8,285	9,113	
	専 用	11,110	10,922	11,567	11,030	11,108	11,414	10,397	8,388	12,242	13,031	
	計	19,430	18,803	18,785	19,183	20,088	19,825	18,613	16,383	20,527	22,144	
外貿 コンテナ	貨物量(千トン)	903	854	1,079	1,455	1,619	1,758	1,796	2,131	2,313	3,373	
	個数(千TEU)	(91)	(89)	(114)	(149)	(155)	(165)	(174)	(180)	(171)	(287)	
内 貿	公 共	11,675	11,094	12,850	14,269	13,982	18,531	25,896	28,209	27,828	31,764	
	専 用	50,227	49,955	51,760	57,252	56,859	58,661	57,754	57,441	59,391	57,842	
	計	61,902	61,050	64,610	71,521	70,841	77,192	83,650	85,650	87,220	89,606	
フェリー除	公 共	11,675	11,094	10,883	10,157	10,438	11,877	12,949	13,681	13,230	16,321	
	専 用	11,180	11,165	10,866	13,456	13,355	12,970	12,290	10,931	12,464	13,617	
	計	22,855	22,259	21,749	23,613	23,793	24,847	25,239	24,612	25,694	29,938	
フェリー	公 共	-	-	1,967	4,112	3,543	6,654	12,947	14,528	14,598	15,443	
	専 用	39,046	38,791	40,894	43,796	43,504	45,691	45,465	46,510	46,927	44,225	
	計	39,046	38,791	42,861	47,908	47,047	52,345	58,412	61,038	61,525	59,668	
合 計	公 共	19,995	18,976	20,068	22,422	22,962	26,942	34,112	36,204	36,114	40,877	
	専 用	61,336	60,877	63,327	68,282	67,967	70,075	68,151	65,830	71,633	70,873	
	計	81,331	79,853	83,395	90,704	90,929	97,017	102,264	102,033	107,747	111,750	
フェリー除	公 共	19,995	18,976	18,101	18,310	19,419	20,288	21,165	21,676	21,516	25,434	
	専 用	22,290	22,086	22,433	24,486	24,463	24,384	22,687	19,320	24,706	26,648	
	計	42,285	41,062	40,534	42,796	43,882	44,672	43,852	40,995	46,222	52,082	

苫小牧港全体



主な取扱貨物の品目



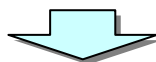
(4) 港の抱える課題と今回計画での対応

【物流】国際・国内輸送ネットワーク拠点としての機能強化

1) 外貿コンテナ貨物

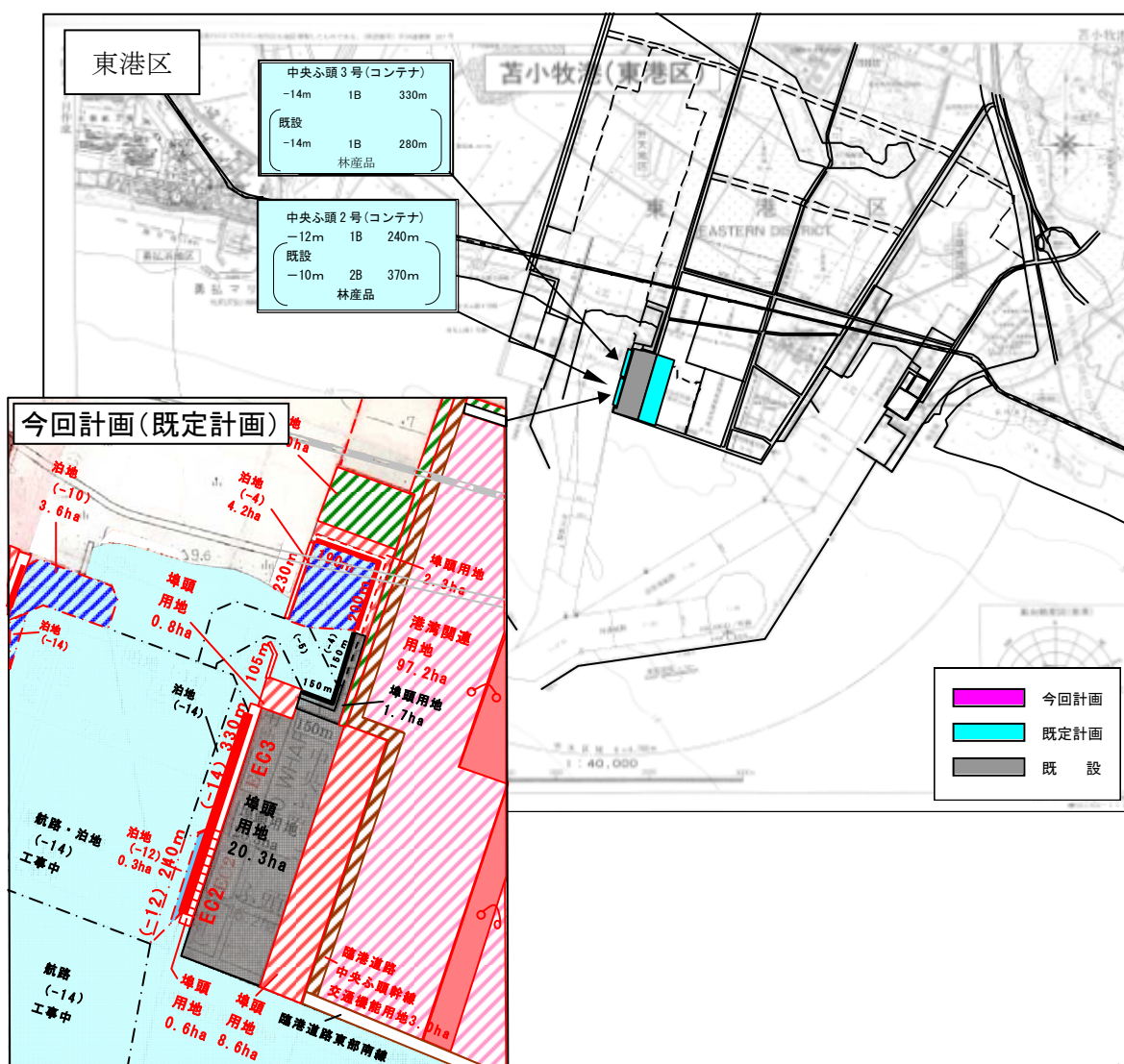
課 題：

- 西港区入船ふ頭では計画以上の外貿コンテナ貨物の増加により、バース数、背後ヤードが不足し滞船などの支障が生じており、今後、増加が予想される貨物への対応も困難となっている。



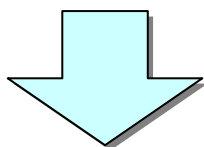
対 応：

西港区本港地区入船ふ頭から東港区弁天地区中央ふ頭へ国際コンテナターミナル機能を移転するとともに、必要なバース数を確保し、物流機能の機能強化を図る。



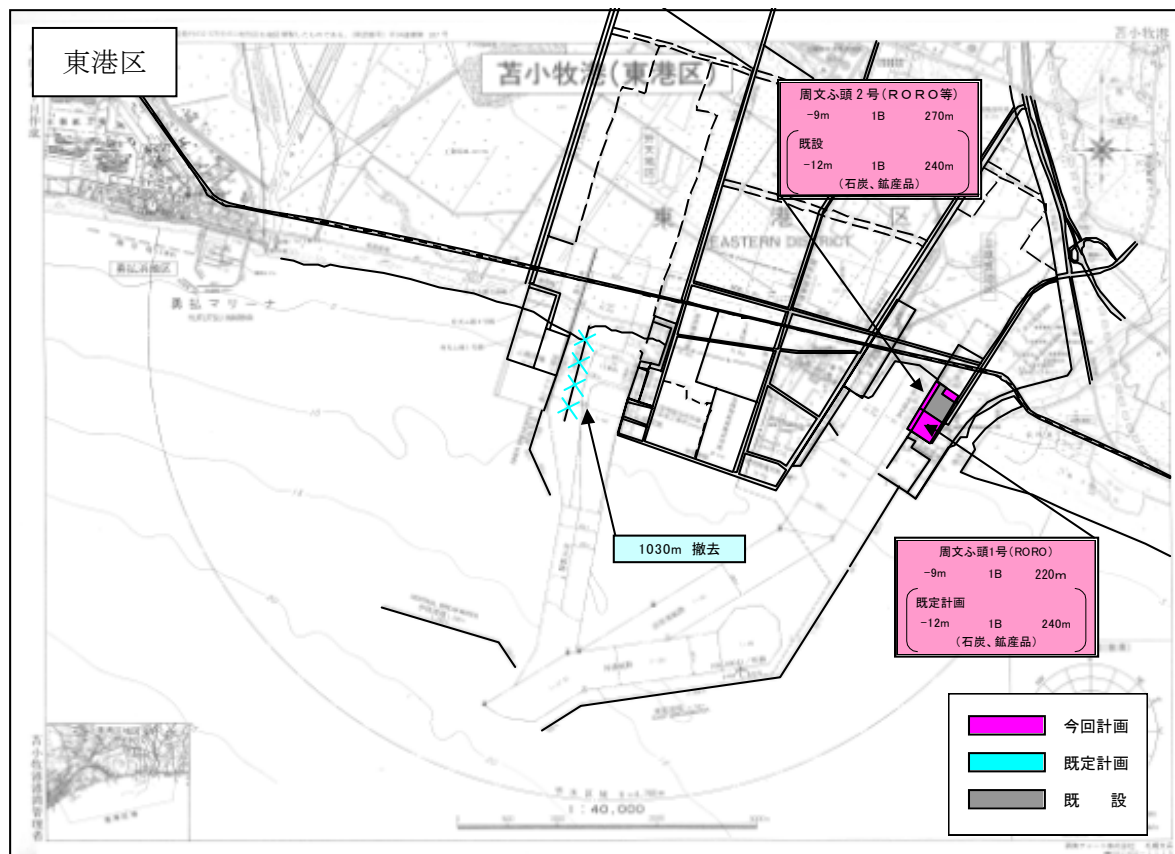
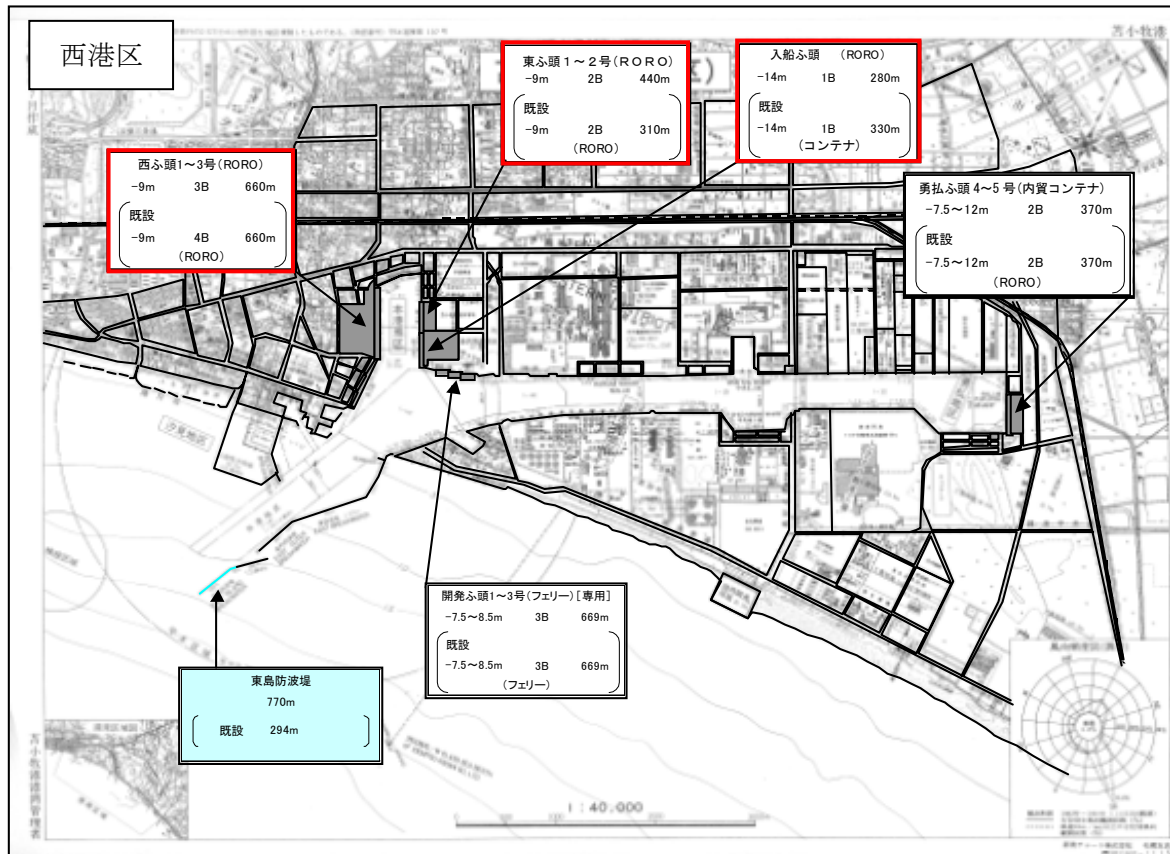
課 題：

- 西港区では、内貿ユニットロード貨物の取扱岸壁や背後ヤードが不足している。
- RORO船等の大型化に十分対応できていない。



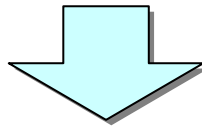
内貿ユニットロードの効率的な取扱のため、西港区の再編と共に、不足する内貿ユニットロード機能を東港区周文ふ頭に配置する。

[illegible][illegible]



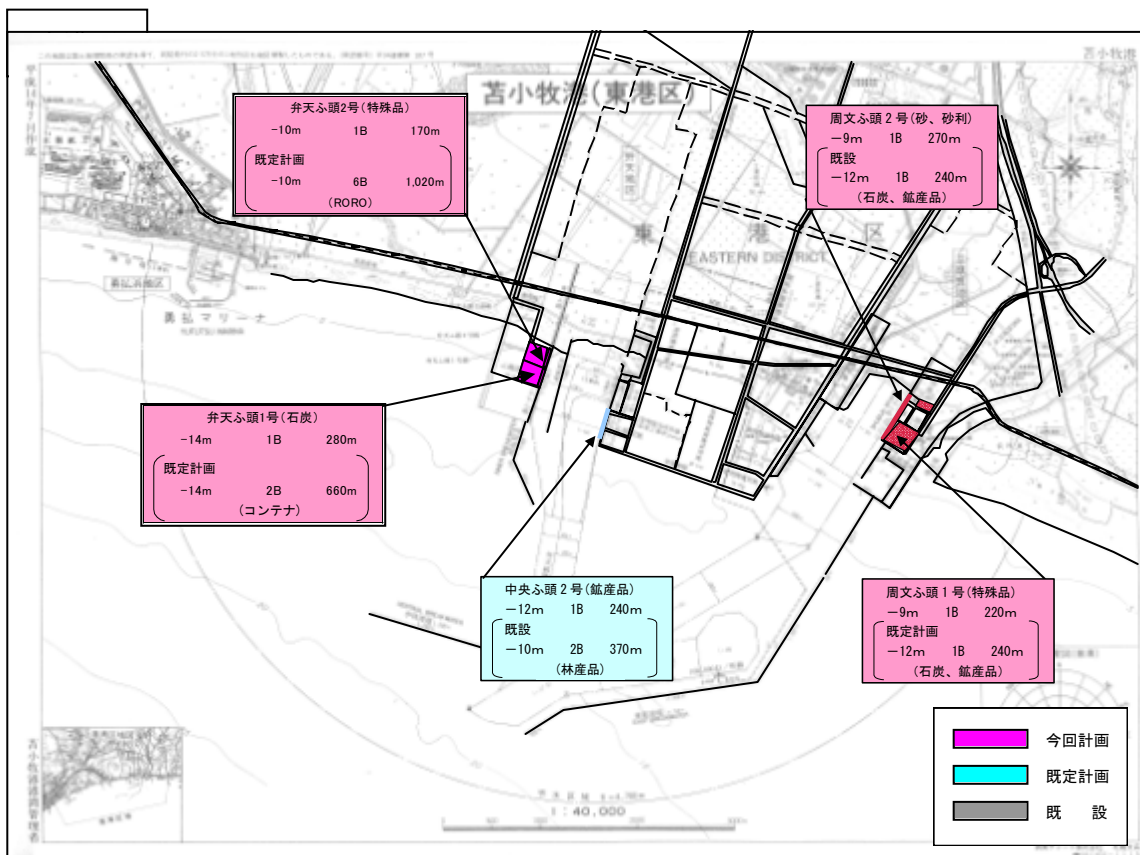
3) 一般貨物

- 苫東臨海部に立地・操業するリサイクル企業由来の発生貨物（鉄くず）は、大幅な増加が見込まれるが、これを取り扱うバルク岸壁が不足している。
- 大型バルク船（石炭）に対応する公共岸壁が整備されていない。



- ・リサイクル関連貨物等に対応した公共埠頭を東港区弁天地区に計画する。
- ・大型バルク船に対応した大水深の公共埠頭を東港区弁天地区に計画する。

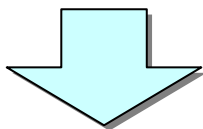
[illegible]



4) 臨港交通施設

課 題：

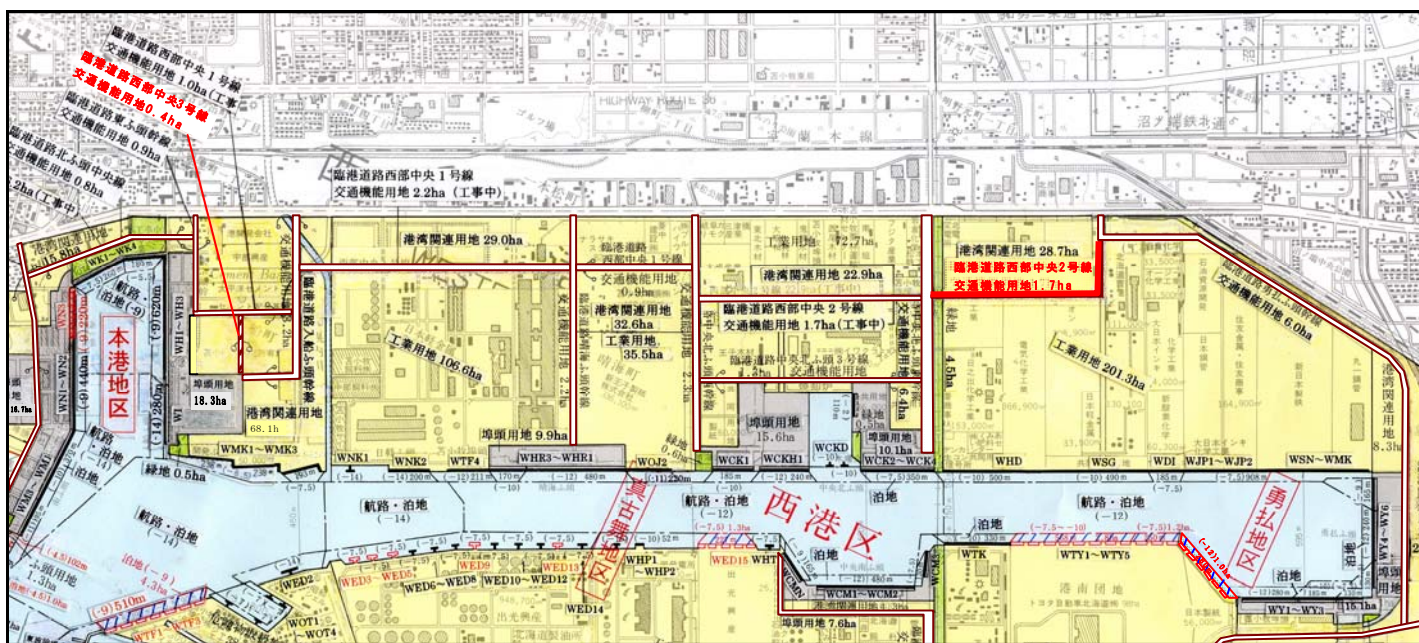
- 港湾関連車両が一般交通が多い都市幹線道路を利用しており、港湾貨物輸送の効率化を図る必要がある。



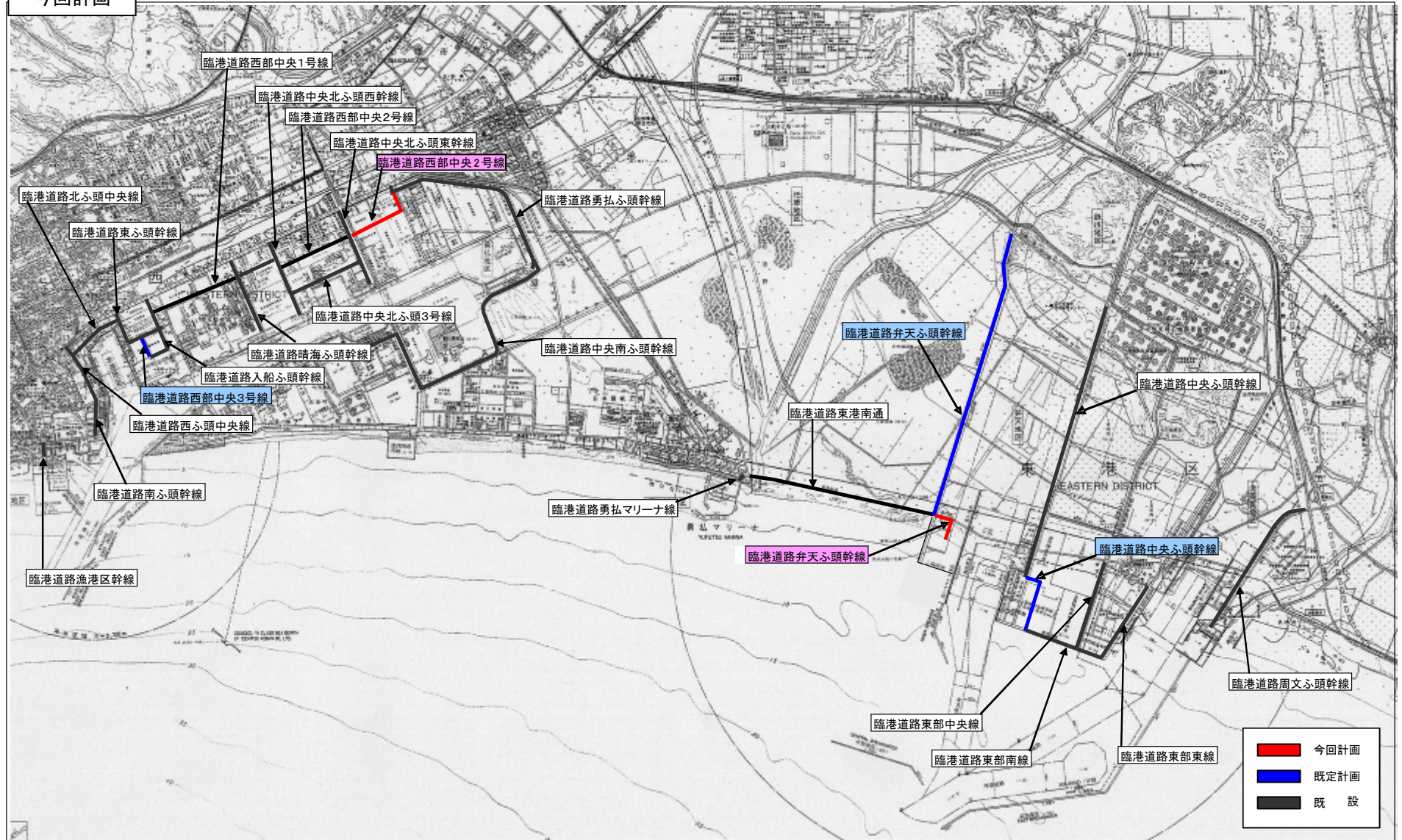
对应：

- ・西港区埠頭間を東西方向に流動する港湾関連交通の円滑な導線を確保するため、既設の臨港道路を延伸する。

西港区



今回計画

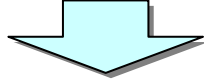


【環境】快適性、安全性の高い港湾空間の形成

1) 緑地の配置

課 題：

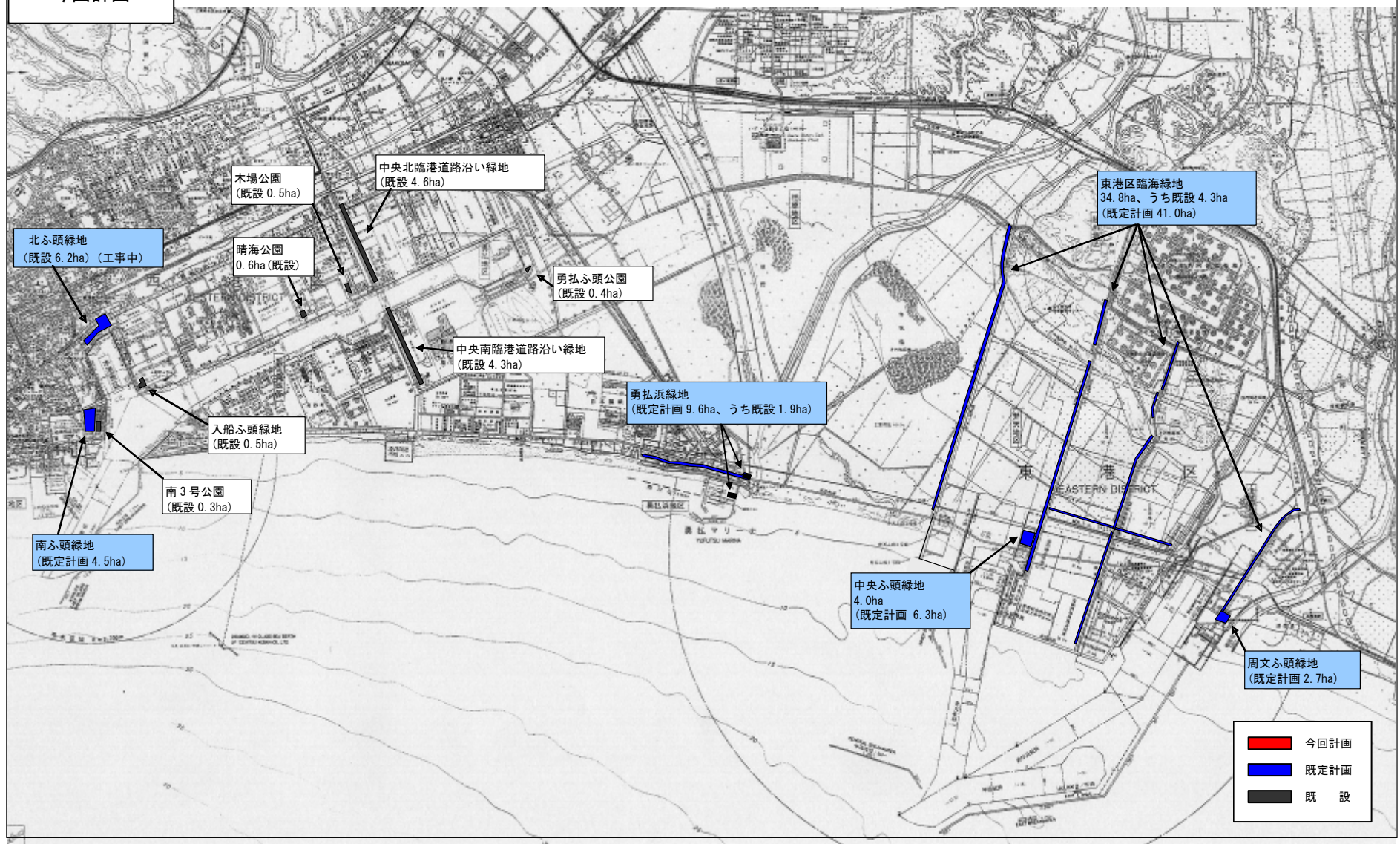
- 市民に開放された安全で快適な港湾空間の整備が必要である。



対 応：

港湾の環境の維持及び改善を図るとともに快適性、安全性の高い港湾空間を形成するため、緑地を計画する。

今回計画

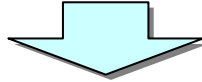


【安全】安全・安心で信頼性の高い港湾空間の形成

1) 小型船だまり施設計画

課 題：

- 【第1 船だまり】船舶の大型化に対応したポートサービス機能の強化が求められており、曳船の大型化に対応可能な係留施設が不足している。
- 【第3 船だまり】係留施設の不足により多層係留が生じているとともに、狭隘な荷捌用地により非効率な作業を余儀なくされ、安全性が危惧されている。

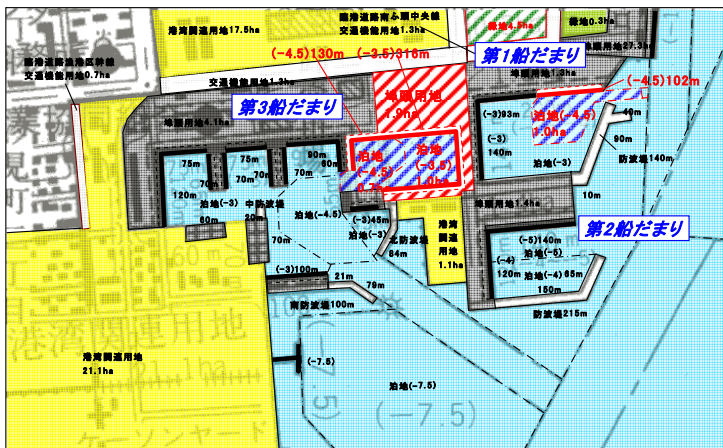


対 応：

- ・曳船の大型化への対応を図るため、係留施設及び水域施設の増深等を計画する。
- ・多層係留及び荷捌用地不足の解消を図るため、西港区汐見地区の係留施設及び水域施設等の新設を計画する。

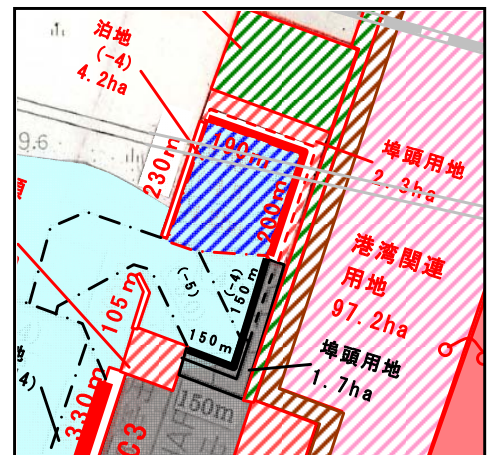
<西港区 汐見地区>

今回計画（既定計画）



<東港区 弁天地区>

今回計画（既定計画）



課 題：

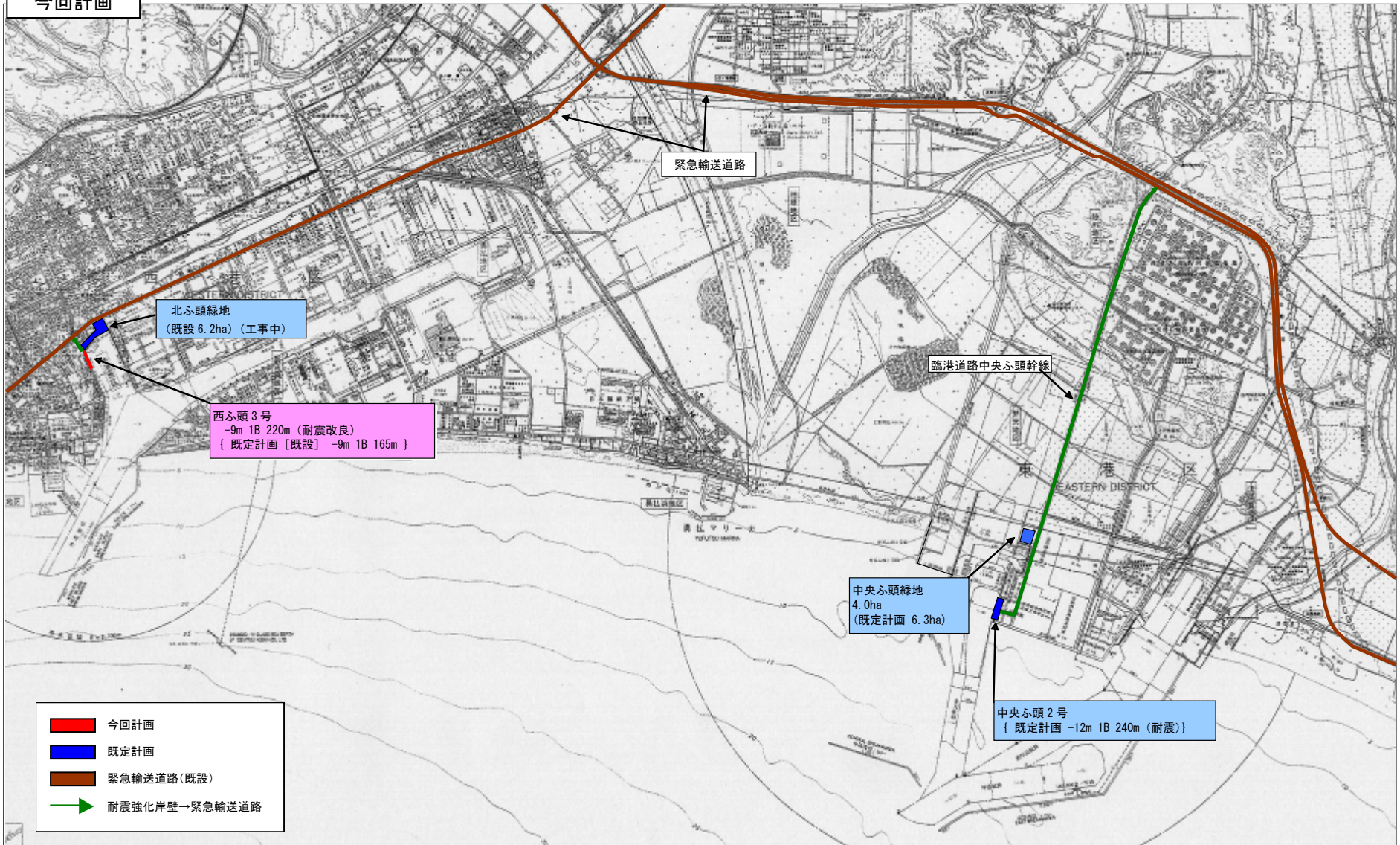
-

北海道の経済社会への影響を最小限に抑える観点から、外貿コンテナを中心とする物流機能維持、及び緊急物資輸送を担うものとして東港区に1箇所、さらに、西港区において緊急物資輸送を担うものとして1箇所、耐震強化岸壁及び港湾利用者の避難場所として活用できる緑地を計画する。

[illegible]

Figure 1: Map of the planned area for the 'Hokkaido New International Airport' project. The map shows various land use zones, including 'Airport Land' (空港用地), 'Port Land' (港湾用地), 'Industrial Land' (工業用地), and 'Residential Land' (住宅用地). Key features include the 'Airport Runway' (空港滑走路), 'Port Road' (港湾道路), and 'Central Expressway' (中央自動車道). The map also indicates the 'Planned Area' (計画区域) and the 'Existing Area' (既存区域).

今回計画



2 苫小牧港の利用、保全の考え方

(1) 安全・安心に対応した対策の考え方

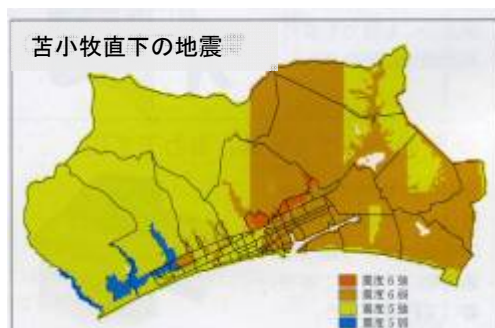
災害への取組は、苫小牧市、近隣自治体、港湾利用者等と一体となった地域連携での対応が必要となる。

苫小牧港では、周辺住民の安全や北海道の経済を支える港湾として、緊急物資輸送をはじめ流通機能を確保する必要がある。

1) 自然災害への取り組み

【大規模地震】

北海道の太平洋岸は、日本海溝・千島海溝周辺を中心とする地震多発地帯であり、苫小牧市地域防災計画（平成10年3月）において、最大震度を直下型地震（震度5強～6弱）と想定している。



苫小牧直下の地震(マグニチュード 6.8)

直下型地震による想定震度
(苫小牧市地域防災計画
「防災ハンドブック」H10.4より)

<対策>

苫小牧港周辺自治体の災害時における地域連携としては、苫小牧市・千歳市・恵庭市による「災害時相互応援に関する協定：平成8年5月29日締結」や苫小牧市・白老町・安平町（早来町と追分町が合併）・厚真町・むかわ町（鶴川町と穂別町が合併）による「災害時広域相互応援に関する協定：平成8年4月1日締結」が結ばれ、救援物資（食料・医療品と資機材）、医療活動、職員派遣、教育援助、被災者への住宅提供などの相互応援を行うこととしている。

これらに対応し、大規模地震発生時の緊急物資輸送機能を確保するため、耐震強化岸壁を東西両港区に配置する。

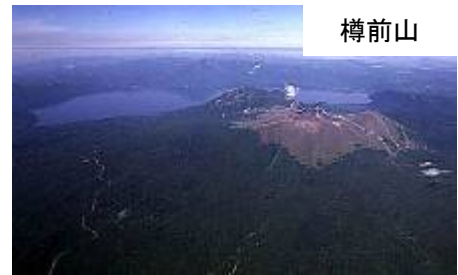
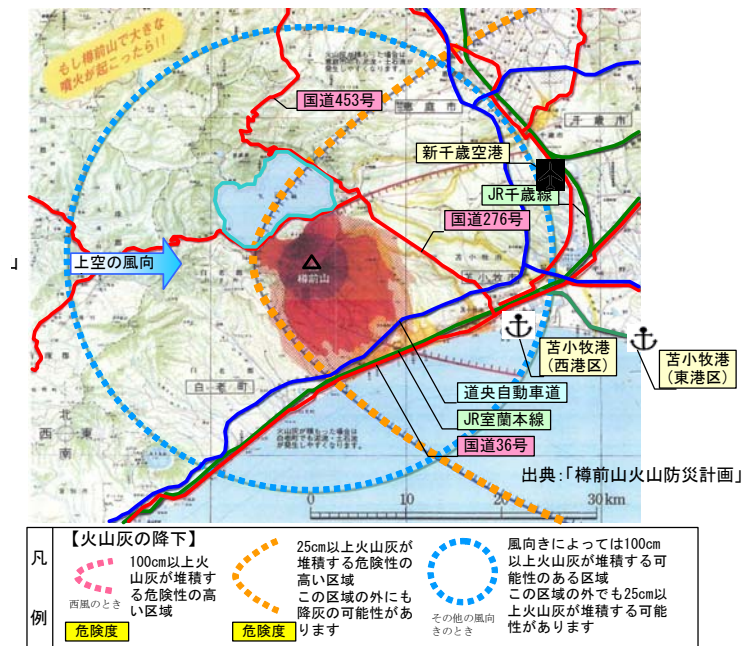
【樽前山噴火】

苫小牧港西港区は、苫小牧北西部に位置する樽前山の噴火により、100cm以上の火山灰が堆積する可能性のある地域に含まれている。

<対策>

苫小牧市、千歳市、恵庭市、白老町、厚真町、安平町（早来町・追分町が合併）、むかわ町（鶴川町・穂別町が合併）から成る「樽前山火山防災会議協議会」を平成12年2月に設立し、樽前山火山防災計画（平成14年6月）を策定し、不測の事態に備えている。

また、苫小牧市の地域防災計画では、大噴火での全市避難を想定し、苫小牧港からの船舶による避難も計画に位置付けていることから、苫小牧港では苫小牧市と連携とりながら避難活動の支援を図って行く。



明治42年3月30日の噴火

【津波】

苫小牧市地域防災計画（平成10年3月、苫小牧市防災会議）では、苫小牧港は災害時における海上の緊急輸送路として位置づけられていることから、「物資の輸送や避難者の輸送などに重要な役割」を的確に果たすべく、大規模地震や津波に対しての備えを進めていくこととしている。

一方、平成18年に中央防災会議「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に関する専門調査会」により北海道から東北にかけての太平洋沿岸の自治体が「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策推進地域」に指定されている。苫小牧市は津波に関する指定基準には該当しないものの、高さ1～3mの津波の来襲が想定されている。

＜対策＞

苫小牧港に津波が襲来した場合、岸壁背後に蔵置されているコンテナ、原木等の貨物やシャーシなどの自動車、小型船だまりにおける小型船、油脂類などの流出が考えられ、このことによる港湾機能への阻害が発生することが想定される。

このため、流出防護柵設置などについて今後とも検討して行く。

2) 港湾保安対策への取り組み

国際的に信頼される港湾保安対策を構築するため、適切な保安対策の推進に努める。

3) 静穏度対策への取り組み

船舶が安心して停泊・係留できるような港内静穏度を長周期波についても確保するよう検討し、必要な対策を講じることで、円滑な海上輸送の実現に努める。

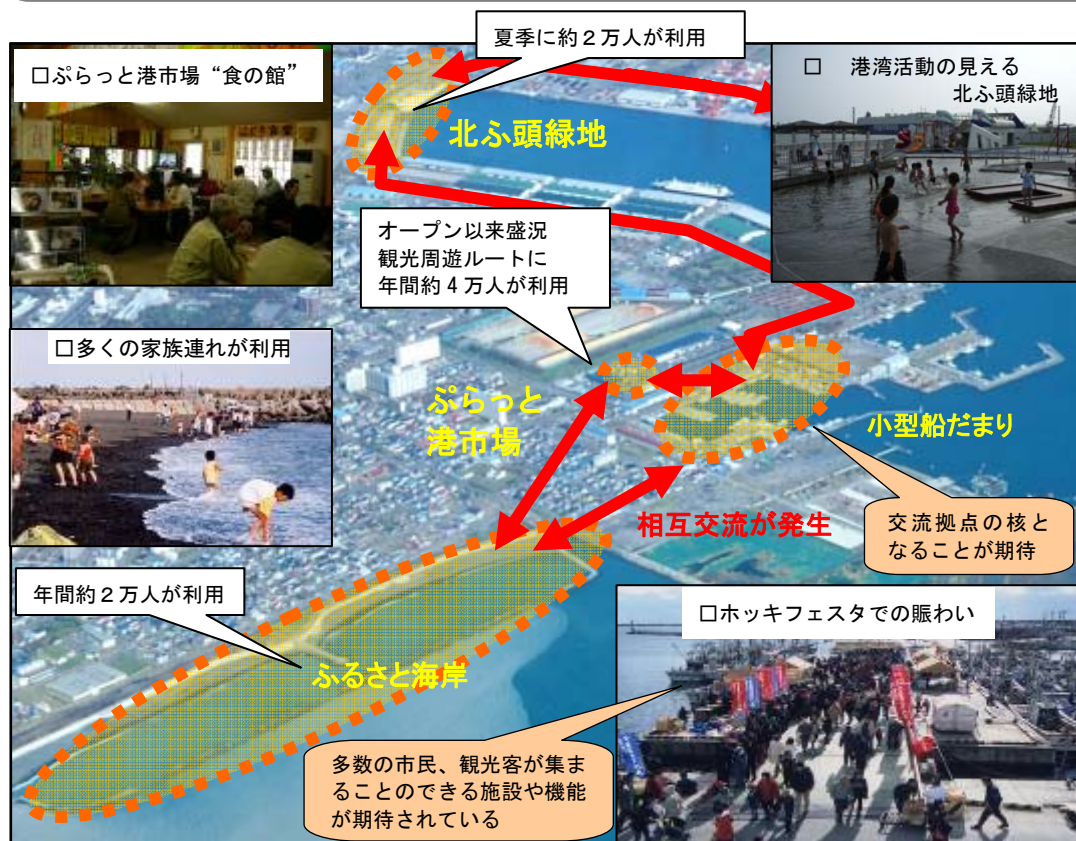
(2) 交流及び景観・環境への考え方

1) 交流：市民が集い、観光客でにぎわう拠点の形成

西港区周辺施設を活用した観光・交流を促進するほか、港周辺で活性化しつつある「みなとまちづくり」等における市民・NPOとの連携・参加の拡大、情報発信を支援する。

小型船だまりや隣接する公設市場付近では、市場や漁業者が地元向けに始めた水産観光の取組が実を結び、観光拠点（ぷらっと港市場）やイベント空間（ホッキフェスタ）として賑わい始めている。

周辺施設との連携により、より充実した水産観光拠点の形成を図る。



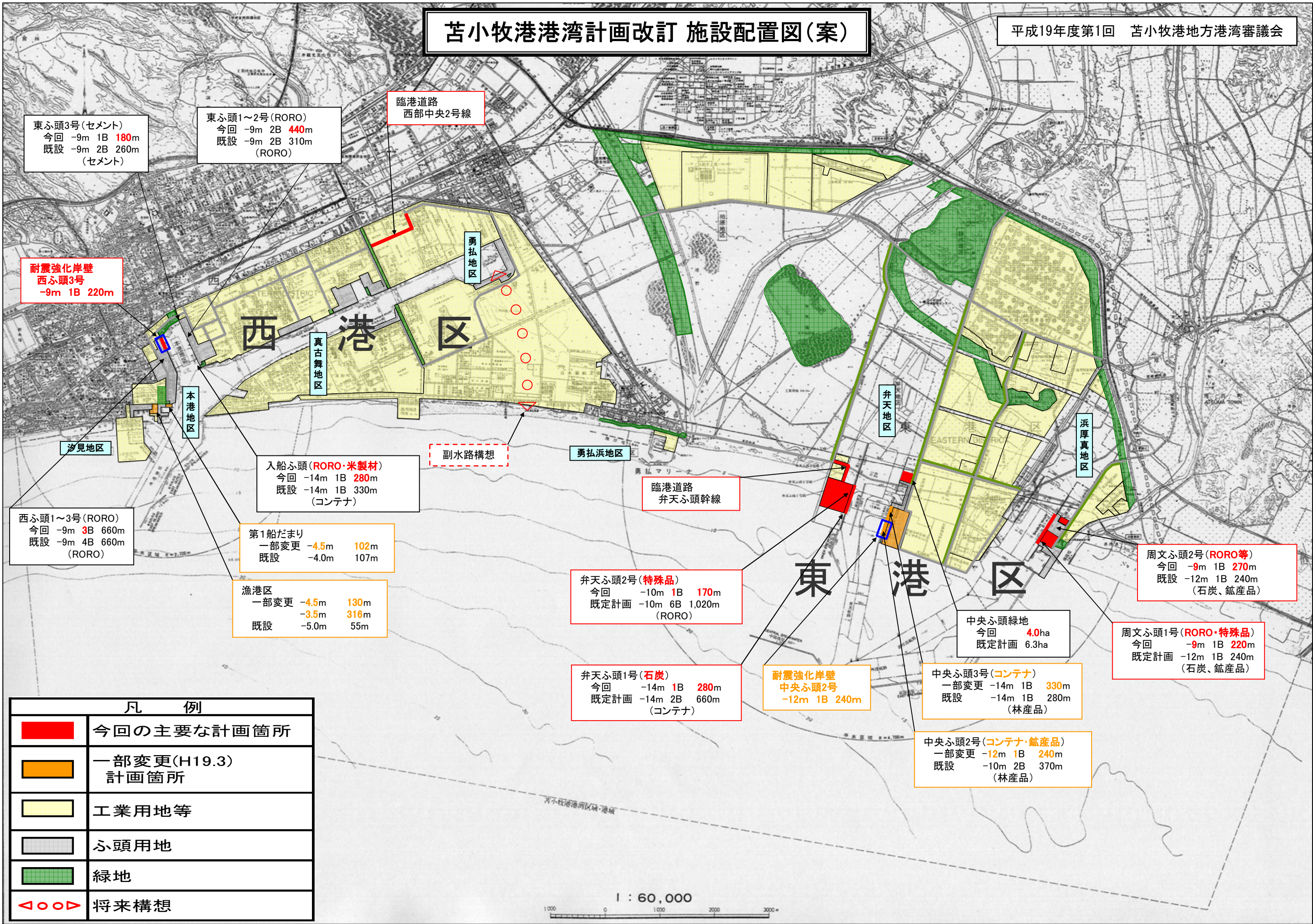
2) 景観：自然との調和

苫小牧港は太平洋岸に位置し、雄大な海原を眺望できるロケーションを有していることから、実際の港湾活動も間近に見ることができる西港区本港地区北ふ頭緑地や勇払マリーナなどの親水空間を活用して、自然と調和しながら港とふれあうことのできる場として利用促進を図る。



苫小牧港港湾計画改訂 施設配置図(案)

平成19年度第1回 苫小牧港地方港湾審議会



東ふ頭3号(セメント)
今回 -9m 1B **180m**
既設 -9m 2B 260m
(セメント)

東ふ頭1~2号(RORO)
今回 -9m 2B **440m**
既設 -9m 2B 310m
(RORO)

臨港道路
西部中央2号線

耐震強化岸壁
西ふ頭3号
-9m 1B 220m

入船ふ頭(RORO・米製材)
今回 -14m 1B **280m**
既設 -14m 1B 330m
(コンテナ)

第1船だまり
一部変更 -4.5m **102m**
既設 -4.0m 107m

漁港区
一部変更 -4.5m **130m**
-3.5m **316m**
既設 -5.0m 55m

西ふ頭1~3号(RORO)
今回 -9m **3B** 660m
既設 -9m 4B 660m
(RORO)

弁天ふ頭2号(特殊品)
今回 -10m **1B** **170m**
既定計画 -10m 6B 1,020m
(RORO)

弁天ふ頭1号(石炭)
今回 -14m **1B** **280m**
既定計画 -14m 2B 660m
(コンテナ)

耐震強化岸壁
中央ふ頭2号
-12m 1B **240m**

中央ふ頭3号(コンテナ)
一部変更 -14m 1B **330m**
既設 -14m 1B 280m
(林産品)

中央ふ頭2号(コンテナ・鉱産品)
一部変更 -12m **1B** **240m**
既設 -10m 2B 370m
(林産品)

周文ふ頭2号(RORO等)
今回 -9m 1B **270m**
既設 -12m 1B 240m
(石炭、鉱産品)

周文ふ頭1号(RORO・特殊品)
今回 -9m 1B **220m**
既定計画 -12m 1B 240m
(石炭、鉱産品)

凡 例	
	今回の主要な計画箇所
	一部変更(H19.3)計画箇所
	工業用地等
	ふ頭用地
	緑地
	将来構想

1 : 60,000
0 1000 2000 3000